

## 助動詞「らむ」確認テスト（現在推量） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

---

**問1** イ（現在の原因推量）。「日の光ものどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく花は散っているのだろう」と、いま目の前に見えない＝心の中で「散る理由」を問いかけている。中学生風に言えば「なんで散っちゃうんだろう？」という気持ちなので原因推量。

**問2** 連体形。「らむ」は四段型で、終止形も連体形も同じ「らむ」の形だが、この歌は一首の末尾を連体形で結んで余情を残している。和歌の末尾の「らむ」は連体形でとるのがふつう。

（注）教科書によっては終止形とみる立場もあるが、本問は「言い切らず余情を残す」連体形でとる。

**問3** 「日の光ものどかな春の日であるのに、どうして落ち着いた心もなく花は散っているのだろうか。」（「らむ」は原因推量で「どうして～だろう」と訳す。）

**問4** ア（現在推量）。文中の「夜半にや（＝夜中にか）」は「夜中に～しているのだろうか」と時・様子を問う疑問であって、理由（どうして）を問う語ではない。ここは「（あなたは）今ごろ夜中にひとりで竜田山を越えているのだろうか」と、見えない今の様子を推し量る現在推量（疑問を伴う形）。原因推量になるのは「など・なぞ」や「～ばや」など、理由を問う言い方を伴うとき（例文③）。

**問5** 「（あなたは）今ごろ、夜中にたった一人で（あの竜田山を）越えているのだろうか。」（「夜半にや…らむ」で「今ごろ夜中に～しているのだろうか」。）

**問6** イ（現在の原因推量）。直前に「寝ればや（＝寝たからだろうか）」と理由を示す言い方があるので、「（あの人を思って）寝たから、あの人が（夢に）見えたのだろうか」と原因を推量している。

**問7** ア（現在推量）。文頭の「いづくにか（＝どこに）」は場所を問う疑問語で、理由（どうして）を問う語ではない。「（あの小舟は）今ごろどこに停泊しているのだろうか」と、見えない今の様子を推し量る現在推量（疑問を伴う形）。

**問8** 連体形。文頭に係助詞「か」があるため、係り結びの法則で文末（結び）が連体形「らむ」になっている。「か」は連体形で結ぶ。

**問9** 「（あの棚なし小舟は）今ごろどこに停泊しているのだろうか。」（場所を問う疑問語「いづくに」＋現在推量の「らむ」。）

**問10** ア（現在推量）。「今ごろは都も花の盛りであるだろう」と、旅先から、見えない都の今の様子を「～だろう」と推量している。疑問の語がないので現在推量。

**問11** 連体形。「あり」はラ変動詞なので、終止形接続の「らむ」もラ変型には連体形に接続する。よって連体形「ある」＋「らむ」で「あるらむ」となる。

**問12** 「今ごろは都も花の盛りであるだろう。」（現在推量「今ごろは～ているだろう」。）

**問13** ウ（婉曲）。「らむ」の下に「と」が続いて言い切らず、内容を示している。このように下に「と」や体言が続いて文が言い切りで終わらない「らむ」は、「～ような」とやわらかく言う婉曲になる。ここは「花が散るよ

うな（と見える夕暮れだ）」。

**問14** 連体形。直後に体言「人」が続いて連体修飾語になっている（「住んでいるような人」）ので、「住むらむ」の「らむ」は連体形。下に体言が来るときは連体形になる、と判断する。

**問15** ア（現在推量）。「(妹は) 今ごろ里で(私を) 待っているだろう」と、いまの相手の様子を「~だろう」と推し量っている。疑問の語がなく、ただ今ごろの様子を想像しているので現在推量。

**問16** ウ（婉曲）。「らむ」の下に「と」が続き、思った内容を示して言い切らないため、「(都には今夜も雪が) 降るような(と思う)」という婉曲になる。

（補足）「降るらむ」を一語の文末ととれば「降っているだろう」（現在推量）の解釈も可能だが、本問は「と」に続けて言い切らない点を重視して婉曲とする。

**問17** (1) 「さるらむ」の「らむ」自体は、推量の助動詞「らむ」である。(2) 直前の「さる」は、指示の副詞「さ」+ラ変動詞「あり」の連体形「ある」が縮まった形（さ・ある→さる）。ラ変型なので「らむ」は連体形「ある（→さる）」に接続している。全体で「(なるほど) そうであるのだろう」の意。

**問18** (1) ⑨「着きぬらむ」…ア（現在推量）。「いづれの船か」は「どの船が」と対象を問う疑問語で、理由を問う語ではない。「今ごろどの船が先に着いたのだろう」と今の様子を推し量る現在推量（疑問を伴う形）。(2) ⑩「行くらむ」…ア（現在推量）。「いかなる人か」も「どんな人が」と人を問う疑問語。「(雨の中を) 今ごろどんな人が出歩いているのだろう」と推し量る現在推量。どちらも疑問の語はあるが理由（どうして）を問わないので、原因推量ではない（理由を問うのは「など・なぞ」「~ばや」など——例文③参照）。

**問19** (1) ⑤「あるらむ」…終止形（係助詞がなく、文をふつうに言い切っているため）。(2) ②「越ゆらむ」…連体形（直前に係助詞「や」があり、係り結びで連体形に結ぶ）。

**問20** 「らむ」は四段型に活用する。問われやすいのは、終止形「らむ」・連体形「らむ」・已然形「らめ」。（整理）未然—（ら）／連用—〇／終止—らむ／連体—らむ／已然—らめ／命令—〇。

**問21** 接続は終止形。ただしラ変型（ラ変動詞や、形容詞・形容動詞の補助活用、「めり」「なり」などラ変型に活用する語）には連体形に接続する。終止形接続の助動詞は、ラ変型の語だけは連体形につくのが共通のルール。したがって、直前の語がラ変型かどうか「らむ」の接続を見分ける根拠になり、ラ変「あり」の下では「あるらむ」（連体形+らむ）の形になる。

**問22** A 「散るらむ」…動詞「散る」（ラ行四段）の終止形「散る」に、現在(原因)推量の助動詞「らむ」が付いた形＝「散る（終止形）+らむ」。

B 「咲けらむ」…四段動詞「咲く」の已然形「咲け」に、完了・存続の助動詞「り」の未然形「ら」、さらに推量の助動詞「む」が付いた「咲け+ら+む」。つまり一語の「らむ」ではなく「り（未然形ら）+む」で、「(桜は今ごろ) 咲いているだろう」の意。見分けの根拠は、直前が四段動詞の已然形「咲け」になっている点（四段已然形+「り」）。

**問23** 「らむ」は、いま目の前で起きている（が直接は見えない）現在の事態を推量する（今ごろ~ているだろう）。これに対し「けむ」は、過去に起きた事態を推量する（~ただろう・~たとかいう）。つまり推量する出来事の時間が、「らむ」は現在、「けむ」は過去という点で異なる。

**問24** 例文①「花の散るらむ」は和歌の末尾にあつて言い切る形なので、現在の事態の理由を問う原因推量（どうして散るのだろう）になる。一方、例文⑥「花の散るらむと見ゆる」は「らむ」の下に「と」が続いて言い切らず、内容を示しているため、「散るような（と見える）」という婉曲の意味になる。下に「と」や体言が続いて言い切るか否かで意味が変わる。